７　「徒然草」兼好法師・「なぐさみ草」

─中世の随筆・近世の随筆

21年度　法政大学

★　つぎの文章は『徒然草』のある章段（Ａ）と、江戸時代前期に成立した『徒然草』注釈書の一つ『なぐさみ草』（松永貞徳著）のうち、当該の章段に付された関連話（Ｂ）である。Ａ・Ｂ二つの文章を読んで、後の問いに答えよ。

Ａ　①ある者、小野道風の書ける和漢朗詠集とて持ちたりけるを、ある人、  
「１御相伝、けることには侍らじなれども、四条大納言ばれたるものを、道風書かんこと、時代や②たがひ侍らん。ａおぼつかなくこそ」と言ひければ、「さ候へばこそ、世にｂありがたきものには侍りけれ」とて、２いよいよ秘蔵しけり。

Ｂ　近き世の歌など書きて、に古き歌人の作と記したる歌書など、多くｃ侍り。また楽の秘書とて、花伝抄といふものを、ある人、天満の少進法印に見せければ、「これは　Ｘ　なり。がありて、中にの能のことを書けり。こひは、観世弥二郎とて、　Ｙ　の者の作りたる能なり」と言はれｄし。よろづ③疑はしきの本を取り扱はん人は、その作者を④まづよく考へ知るべきことなり。

【注】　＊奥　　　　奥書のこと。書物の末尾にあって、その書物の作者などの名前や由緒を記した部分。

＊猿楽　　　能のこと。

＊遊行柳　　能の曲目。西行の和歌で名高い白河の柳をめぐる曲。

＊謡ひ　　　能のこと。

＊物の本　　漢籍、医学書、古典文学書など、学術的な書物。

問１　二重傍線部①「ある」②「たがひ」③「疑はしき」④「まづ」の品詞として適切なものを次の中からそれぞれ選べ。ただし、同じ記号をくり返し選んでもかまわない。

ア　名詞　　　イ　動詞　　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞

オ　副詞　　　カ　連体詞　　キ　接続詞　　ク　感動詞

ケ　助動詞　　コ　助詞

①＝〔　　　〕　　②＝〔　　　〕　　③＝〔　　　〕　　④＝〔　　　〕

問２　傍線部１「御相伝、浮けることには侍らじなれども」とあるが、ここから「ある人」のどのような気持ちが読みとれるか、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　相手の述べていることに不審を感じ、根拠を知りたいという気持ち。

イ　相手の述べていることを表面では肯定し、相手を立てようとする気持ち。

ウ　相手の述べていることを否定したいが、根拠に自信がもてないという気持ち。

エ　相手の述べていることが興味深いので、一定の評価を与えようとする気持ち。

オ　相手の述べていることに意表を突かれ、即座に返事をすることをためらう気持ち。

問３　傍線部２「いよいよ秘蔵しけり」とあるが、なぜか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　自らの所持する書物が、古書に見識をもつ「ある人」からも、これまでに見たことのない珍品だと指摘されたから。

イ　自らの所持する書物の由緒が、古書に見識をもつ「ある人」をもってしても言い当てることのできないものであったから。

ウ　小野道風書写と伝わる和漢朗詠集が、実はそれより格上の四条大納言によって書写された、由緒あるものだと知ったから。

エ　そのような代物はありえないと指摘されたが、その意味が理解できず、ありえないものがあったと受けとめてしまったから。

オ　そのような代物はあるのだろうかと遠回しに批判されたことに憤り、意地になって珍重することにより対抗しようとしたから。

問４　空欄　Ｘ　に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

　　ア　稀書　　イ　古書　　ウ　珍書　　エ　秘書　　オ　偽書

問５　空欄　Ｙ　に入れるのに最もふさわしい語句を文章中から抜き出せ。

　　［　　　　　　　　　　］

◎問６　右のＡ・Ｂの文章に出てくる「小野道風が書写した和漢朗詠集」と「金春禅鳳が作った花伝抄」の共通点は何か。二十字以上、三十字以内でまとめよ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

　　［

］

問７　『なぐさみ草』と異なる時代に成立した作品を次の中から一つ選べ。

　　ア　仮名手本忠臣蔵　　イ　雨月物語　　ウ　十六夜日記

　　エ　野ざらし紀行　　　オ　好色一代男

【確認問題】

１　波線部ａ「おぼつかなく」･ｂ「ありがたき」の本文中の意味として適当なものを、それぞれ次から選べ。

　ａ　おぼつかなく

　　ア　心もとなく　　イ　安定しなく

　　ウ　趣深く　　　　エ　関係がなく

　ｂ　ありがたき

　　ア　意味のない　　イ　感謝したい

　　ウ　貴重な　　　　エ　些細な

２　波線部ｃ「侍り」の敬語の種類を次から選べ。

　ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

【補充問題】

３　波線部ｄ「し」は破格（本来の文法規則から外れること）であるが、その説明として正しいものを次から選べ。

ア　強意の副助詞「し」であり、文末にきていることが破格である。

イ　サ行変格活用動詞「す」であり、連用形が文末にきていることが破格である。

ウ　ナ行変格活用動詞「死ぬ」であり、語幹の「し」のみで用いられていることが破格である。

エ　過去の助動詞「き」の連体形であり、連体形が文末にきていることが破格である。

【解答】

問１　①＝カ　②＝イ　③＝ウ　④＝オ

問２　イ

問３　エ

問４　オ

問５　近き世

問６　Ａ書物の成立が、Ｂ書き残した人が生きた時代よりＣ後であるという点。（30字）

評価の基準　ＡとＢの比較＝５〔なければ全体０。〕／Ｃ＝５

問７　ウ

【確認問題】

１　ａ＝ア　ｂ＝ウ

２　ウ

【補充問題】

３　エ

【現代語訳】

Ａ　ある者が、小野道風が書いた和漢朗詠集であると言って持っていたのを、ある人が、「先祖代々のお言い伝えは、出まかせであることはないでしょうけれども、四条大納言（＝九六六生～）が編纂なさったものを、小野道風（＝～九六六没）が書くようなことは、年代が違ってございませんか。心もとなく（思われます）」と言ったところ、（ある者は）「そうでございましたら、世にも貴重なものなのでございますなあ」と言って、いっそう大切に保管した。

注　四条大納言＝平安中期の歌人、藤原公任のこと。康保三（九六六）年生まれ。

小野道風＝康保三（九六六）年没。つまり、四条大納言の生年に小野道風は亡くなっている。

Ｂ　最近の和歌などを書いて、奥書に昔の歌人の作であると記している歌書などが、多くございます。また能の秘書であるといって、『花伝抄』というものを、ある人が、天満の下間少進法印に見せたところ、「これは偽書である。金春禅鳳（＝一四五四生～一五三二没）の奥書があって、中に、遊行柳（＝初演一五一四）の能のことを書いている。この能は、観世弥二郎（＝一四八八生～一五四一没）といって、最近の者が作った能である」とおっしゃった。総じて（成立過程が）よくわかっていない書物を取り扱うような人は、その作者をまずはよく考えて知らなければならないということである。

注　金春禅鳳＝享徳三（一四五四）年生まれ、天文元（一五三二）年頃没。能楽師。

遊行柳＝初演が永正十一（一五一四）年。

観世弥二郎＝長享二（一四八八）年頃生まれ、天文十（一五四一）年頃没。